

# 本丸全体像



本丸

月見櫓

小天守

大天守

北九間櫓

唐人櫓

廊下橋

三階櫓

能舞台

類当御門

さんかいやぐら  
三階櫓

宝形櫓

ほうぎょうやぐら  
宝形櫓

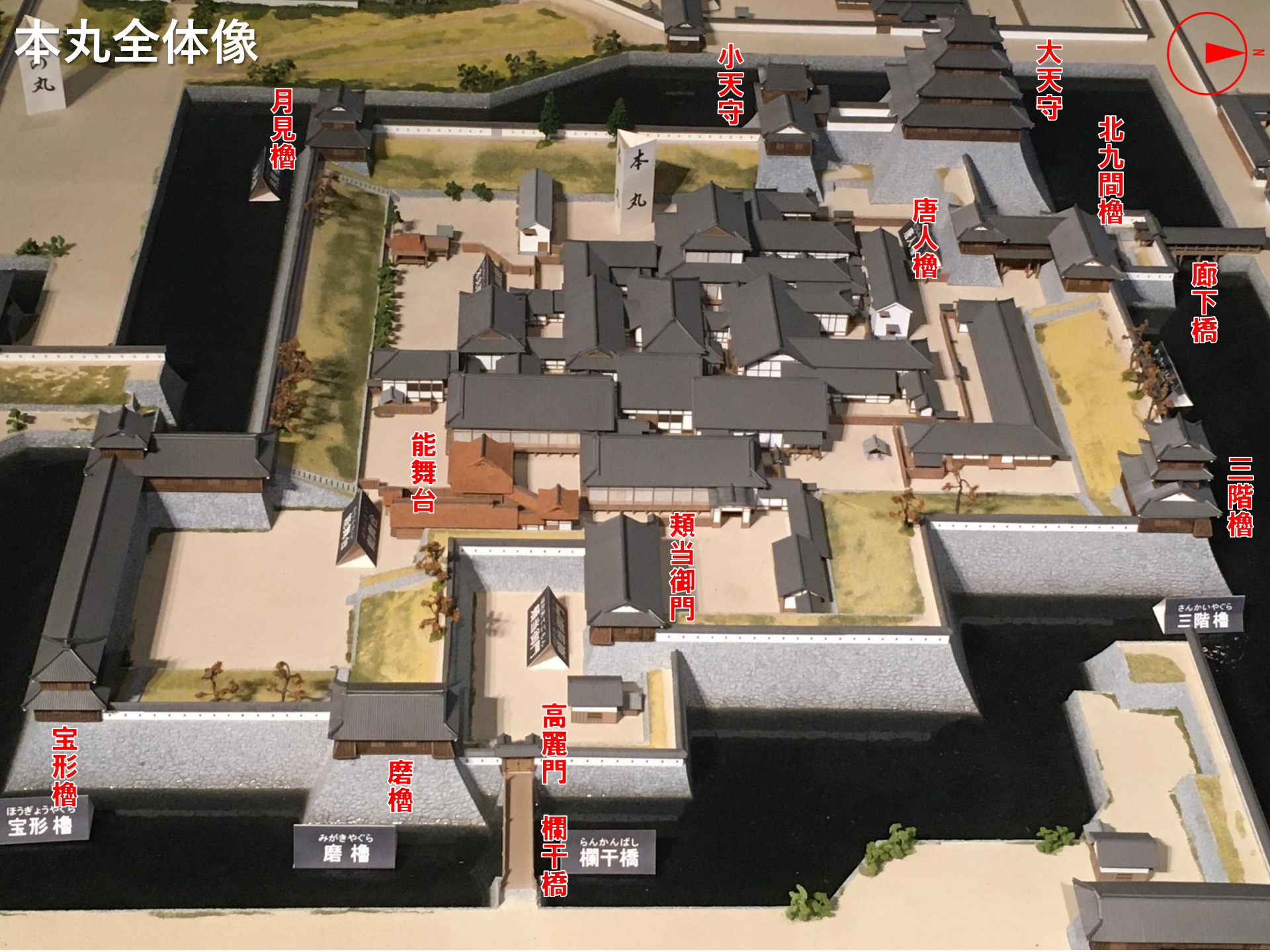
磨櫓

みがきやぐら  
磨櫓

高麗門

欄干橋

らんかんばし  
欄干橋





# 本丸への入り口

## 欄干橋らんかんばし



本丸に入るためには、二の丸西側（現在の八代市役所側）に架けられたらんかんばし欄干橋を渡ります。現在では、本丸南側に八代宮参道として入口が設けられていますが、これは明治13年（1880）の八代宮創建時に新たに造られたものです。江戸時代の入り口はこの欄干橋と北の丸の廊下橋門ろうかばしもんのみでした。

本丸入口の要！

こうらいもん

高麗門

〜

頼当御門

ほおあてごもん



らんかんばし

欄干橋

こうらいもん

高麗門

ほおあてごもん

頼当御門

欄干橋を進み、高麗門を抜けると、頼当御門がそびえ立ちます。先に進むためには、右に大きく進路を変えなければなりません。その先には再び  
嚴重な門があり、三方を囲む石垣や櫓やぐらによって、敵の侵入を防ぎます。こ  
のような城の入り口の構造をますがたこぐち枅形虎口ますがたこぐちといいます。





# ほんじょうじ こうらいもん 本成寺の高麗門

(八代市指定有形文化財)

八代城本丸入口の高麗門は、現在、  
ほんじょうじ (八代市本町1丁目10-24) に移  
築されています。本成寺は、加藤清正  
の次男である加藤忠正の菩提寺として  
最初、宮地村に建てられました。細川  
三斎在城のころ、三斎が亡父の菩提所  
を建立するため、本成寺に本堂と梵鐘  
を献上させ、その代わりに高麗門を寄  
付しました。そのときに本成寺も城下  
町に移築したと伝わります。当時の八  
代城の姿をしのぶことができる貴重な  
建造物です。



画像上：本成寺の高麗門写真

画像下：再現CG（熊本県立工業高等学校制作）



# 本丸の櫓

八代城本丸には多くの櫓が建てられ、見た目の壮健さはもちろん、守りも堅固なものでした。現在は石垣のみが残る八代城ですが、本館自慢の八代城郭模型から当時のさまざまな櫓の姿をご覧ください。



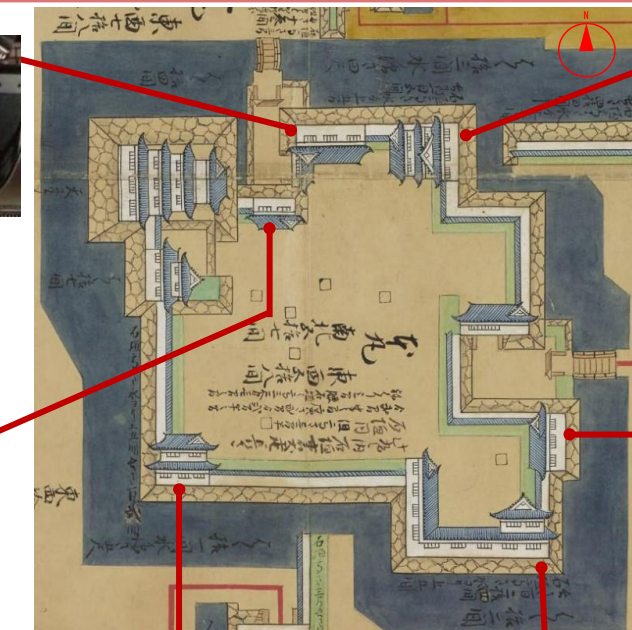
**北九間櫓 (きたきゅうけんやぐら)**  
平櫓。北の丸から本丸への入り口を守っています。その名の通り東西に9間の櫓。



**唐人櫓 (とうじんやぐら)**  
平櫓。隣に合阪 (あいさか) というV字の階段があります。

## 月見櫓 (つきみやぐら)

二階構造。本丸南西の隅に位置します。初層に唐破風の石落としがありました。



## 三階櫓

(さんがいやぐら)  
三階建ての櫓。本丸北西に位置します。



## 磨櫓 (みがきやぐら)

平櫓。  
本丸入口を守る重要な櫓です。



## 宝形櫓 (ほうぎょうやぐら)

宝形造りという屋根の形が特徴。二階構造。石垣の算木積みも必見です。





城郭模型（部分）



再現CG（熊本県立八代工業高等学校制作）

## だいてんしゅ 本丸のシンボル 大天守

八代城本丸石垣のもっとも高いところに建てられていたのが、本丸のシンボルである大天守です。大天守は地上4階に地下1階の5階構造であったと考えられています。石垣は約15メートルもの高さを誇ります。寛文12年（1672）、落雷による火災で大天守や小天守などが焼失。その後、小天守や櫓は再建されましたが、大天守は再建されることがなく明治3年（1870）に廃城となります。





CG（熊本県立八代工業高等学校制作）

## しょうてんしゅ 小天守

だいてんしゅ 大天守のとなりに2層2階構造の小天守がありました。しょうてんしゅ 大天守とは渡りやぐら檜でつながっており、連結式れんけつしきの天守となっていました。かんぶん 寛文12年（1672）と寛政9年（1797）に火災で焼失しましたが、その後、再建されました。

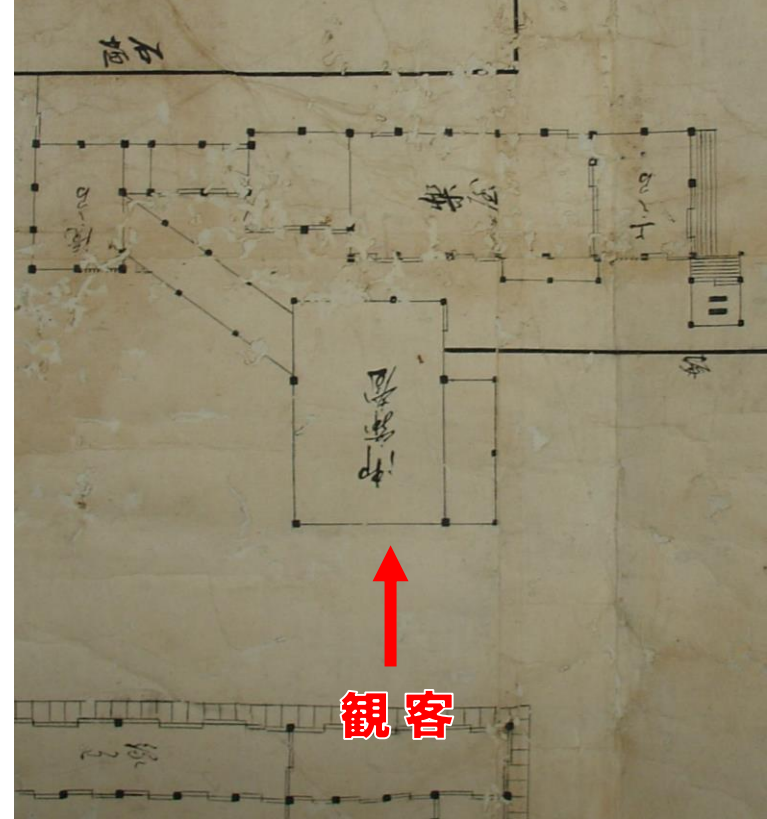
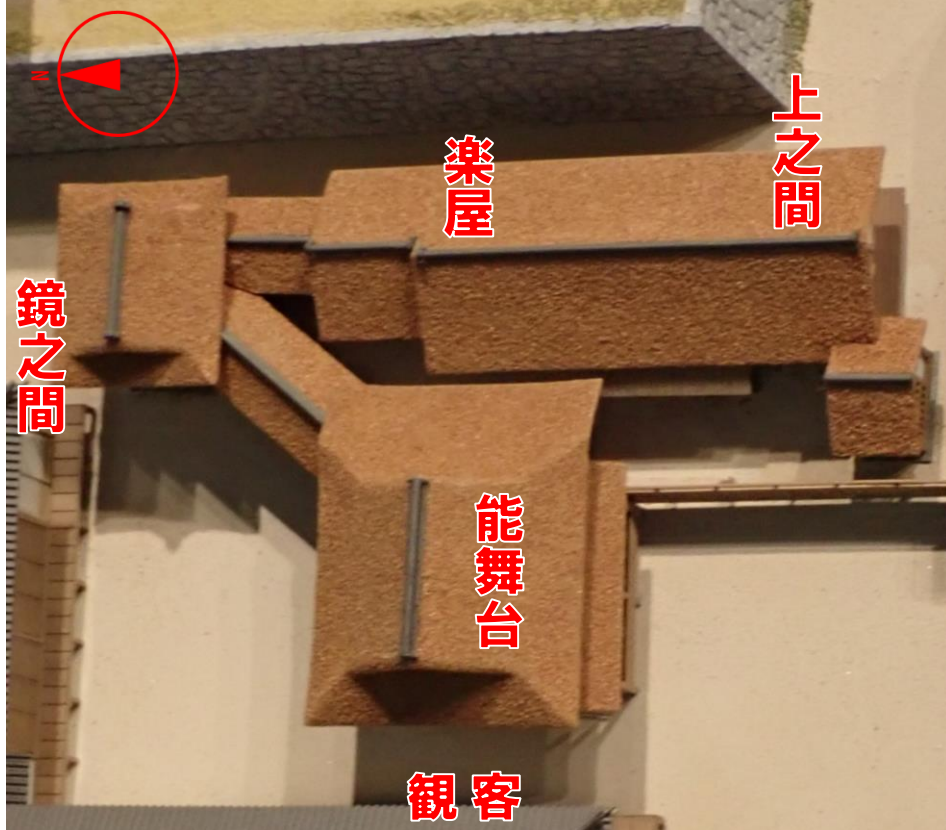




## 重要儀礼・接待の場 だいしよいん 大書院

本丸中心部には、じゅうよう 重要な儀礼や ぎれい 貴賓接待の場として だいしよいん 大書院がありました。入母屋造り、くだりむね 降棟、ほんかわらぶき 本瓦葺の屋根に からはふ 唐破風の玄関がありました。明治3年（1870）の いりもやづく 廃城後は、はいじょうご 二の丸に移築され長らく ぶどう 事務所や げぎょ 学校として利用されましたが、昭和期に焼失。現在は部材の一部や ぶどう 葡萄を彫刻した げぎょ 懸魚（江戸末期作）などが残っています。





「八代城間取図」(部分・一部加筆)(当館所蔵)

## のうぶたい 武家のたしなみ 能舞台

現在、相撲場が設けられている場所には、かつて能舞台がありました。能舞台がいつごろ創建されたかは不明ですが、江戸時代に作成された「八代城間取図」(当館所蔵)には能舞台や楽屋などの建物の詳細が描かれています。八代城主をつとめた松井家には、今でも全国有数の能面、能装束が伝わっています。